

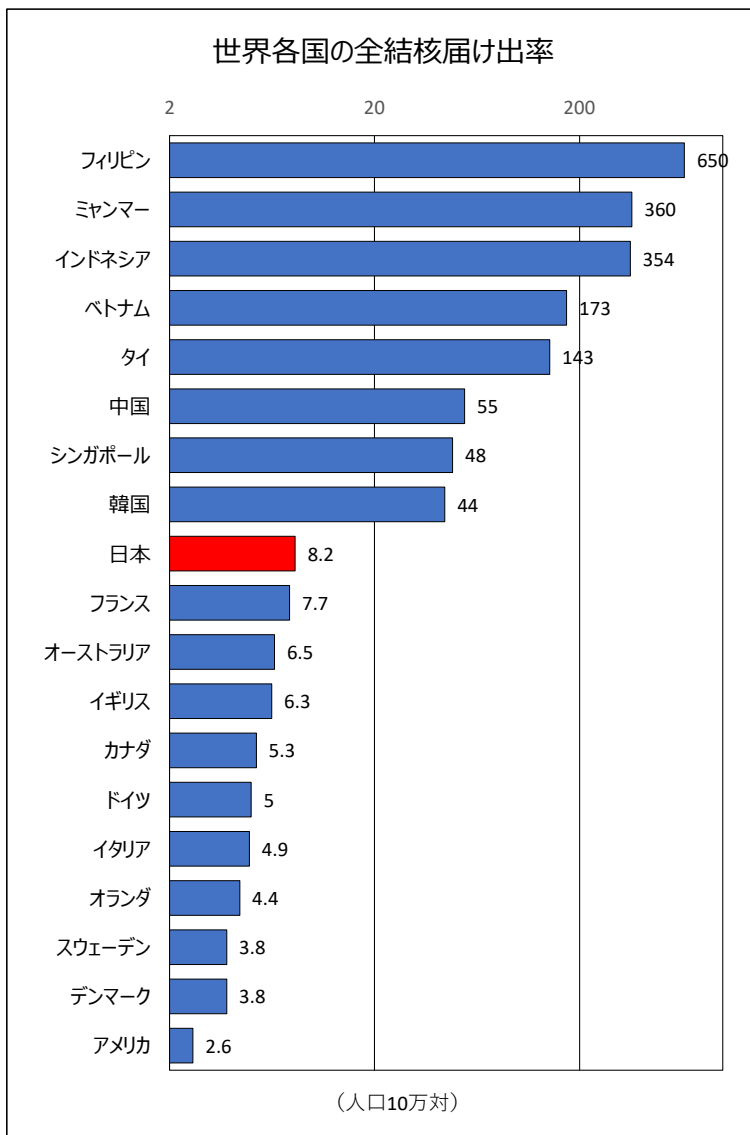
世界の結核、日本の結核

2022年におけるわが国の結核患者数は10,235人で、罹患率は結核低まん延国とされる人口10万対10以下の8.2でした。下図で示された通り、他の先進国と比べるとその率はまだ高くわが国最大の伝染病の一つです。新型コロナウイルス感染症の影響により結核患者の届け出数が減少しているとも考えられるので静観はできません。

わが国における結核患者は、高齢者層と都市部における社会的困難層との2つの人口集団に偏在してきており、患者個々の必要に応じたよりきめ細かなケアが必要となっています。

また、外国生まれ結核患者の割合は全体では11.9%ですが、若年層（20～29歳）における割合は70%を超えており、外国生まれ結核患者への対応も必要となっています。

空気感染する結核をより早期に撲滅してゼロ結核(Zero TB)を達成するためには、患者個々の必要に応じた結核対策を忍耐強く継続していかなければなりません。



Zero TB: WHO が 2015 年に発表した“The End TB Strategy”でビジョンとして掲げた“A world free of TB. Zero deaths, disease and suffering due to TB.”（結核がない世界：結核による死亡・結核という疾病や苦難のない状態）のこと。

<https://www.who.int/publications/item/WHO-HTM-TB-2015.19>

2023.7 現在

日本の数値は「結核の統計 2023」、諸外国は WHO’s “TB country. Regional and global profiles” 推定罹患率 (2023.7.4 アクセス) をそれぞれ引用